

江戸川区立上小岩小学校

令和7年度版『小学算数2上・2下』年間指導計画・評価計画(案)

* は「発展的な学習内容」を含む箇所

★は教育出版のWebサイトに「まなびリンク(デジタルコンテンツ)」がある箇所

<上巻>

● みんなで算数をはじめよう! / ココアはいくつ

4月上旬(2時間)

p.2~10

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
2	2 5 1 0	みんなで算数をはじめよう! / 算数で つかいたい見方・ 考え方	①②算数の学習の進め方 を理解し、問題解決に生 かすことができる。	・「みんなで算数をはじめよう!」及び「算 数でつかいたい見方・考え方」を見て、算 数の学習の進め方について話し合う。	・問題解決の進め方を理 解している。	
		ココアはいくつ		・「ココアはいくつ」の問題に取り組み、同 じ文字が同じ数になるようにして、コ+コ+ ア=15になる式をつくる。 ★ワークシート「ココアの計算」「ルルル、 ララララ、トマトの計算」を使って活動す る。		・問題の条件に着目し、題 意に合う式を筋道を立て て考えたり表現したりして いる。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・問いをもち、主体的に考えたり友だちの考えから学び合おうとしたりするとともに、解決の過程や結果を振り返り、よりよい方法を考えたり新たな問いを見いだそうとしたりしている。

Ⅰ 表とグラフ

4月上旬～中旬（4時間）
p.10～14

◆単元の目標と評価規準

○簡単な表やグラフについて理解し、データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察する力を身につける。また、データを整理することに進んで関わり、その過程を振り返り、表やグラフの表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)、D(1)イ(ア)】

- ・身のまわりにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したりよみ取ったりすることができる。＜知・技＞
- ・データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察している。＜思・判・表＞
- ・データを整理することに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	14		①②身のまわりの数量を分類整理して、簡単な表やグラフに表すことができる。 ※（問題発見力モデル） 本時の活動をとおして、「はてな？」の見つけ方を学習する。	・学級紹介のポスターを作るという目的意識から、「わたしたちのクラスの人気は？」という問いをもち、好きな給食調べの活動に取り組み、既習の絵グラフを振り返り、種類や人数をわかりやすく表す。 ・好きな遊び調べの活動にも取り組み、1枚のカードに2種類の遊びが書いてある場合はどうすればよいかという新たな問いを見だし、わかりやすく分類整理する方法を考え、簡単な表やグラフに表す。	・一次元表や○を用いたグラフについて理解し、表したりよみ取ったりすることができる。	・データを分類整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて表し、数の大きさなどの特徴について考えている。
1	5	学んだことをつかおう	③表やグラフを活用する場面について考えたり、よみ取ったりすることができる。	・「学級しようかいをしよう!」という目的意識から、表やグラフを活用した学級紹介について話し合う。 ・学級紹介のポスターを見て、どんなことがよみ取れるかを話し合う。		
1	6	まとめ	④学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「表とグラフ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・データをわかりやすく整理し表やグラフに表すことについて、目的意識をもって主体的に取り組んでいる。						

◎ ふくしゅう①

	頁	学習活動
	17	・第1学年「なんじなんぶん」「大きなかず」の復習をする。 ・単元2「たし算」単元3「ひき算」に関わる既習事項を確認する。

2 たし算

4月中旬～5月上旬（9時間）
p.18～33

◆単元の目標と評価規準

○2位数の加法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(ウ)、A(2)イ(ア)、内(3)】

- ・2位数+2位数の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、加法の計算が確実にできる。また、加法に関して成り立つ性質について理解している。＜知・技＞
- ・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。＜思・判・表＞
- ・加法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
7	18 ～ 28	(2けた+2けたの計算)	①②2位数+2位数で繰り上がりのない加法の計算のしかたを理解する。 ※(問題解決力モデル) 本時の活動をととして、「なるほど!」のを見つけ方を学習する。	・「おかしを2つえらぼう!」の活動をきっかけに、場面絵を見て加法の問題を作り、既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・24+15のような、2位数+2位数で繰り上がりのない加法の計算のしかたを考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。(p.30～31の[友だちのノートを見てみよう]も扱う。)	・2位数の加法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解している。	・2位数の加法の計算のしかたを、1位数の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			③2位数+2位数で繰り上がりのない加法の筆算のしかたを理解する。	・24+15のような、2位数+2位数で繰り上がりのない加法の筆算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「24+15の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り上がりのない2位数の加法の筆算形式を知り、筆算ができる。	・2位数の加法の計算のしかたと筆算のしかたを関連づけて考えている。
			④⑤2位数+2位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・28+17のような、2位数+2位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「28+17の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り上がりのある2位数の加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
			[つながるミカタ]	・2位数の加法の筆算のしかたについて、「10のまとまり」という見方を振り返り、ほかの数値の場合に関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・2位数+2位数=何十の加法や、1位数+2位数で繰り上がりのある加法の筆算ができる。	
		(たし算のきまり)	⑥2位数+2位数=何十の計算や、1位数と2位数の繰り上がりのある加法の計算ができる。	・49+31のような、答えが何十になる加法の計算のしかたを考える。 ・4+27のような、被加数や加数が1位数の加法の計算のしかたを考える。	・加法の交換法則が成り立つことを理解している。	
1	32 ～ 33	学んだことをつかおう	⑦加法の交換法則を理解する。	・8+6と6+8の答えを比べることをととして、加法の交換法則を知る。 ★まとめアニメ「たし算のきまり」を使って確認・説明する。		
			⑧日常生活の場面と関連づけて、加法の計算を活用することができる。 [友だちのノートを見てみよう]	・「100円でえらぼう!」という目的意識から、いろいろなお菓子の選び方を考え説明し、その代金を求める。 ・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		・問題の条件に着目し、加法の計算を用いて目的に合った買い方を考えている。
1	33	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「たし算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・加法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、加法を生活や学習に活用しようとしていたりしている。						

3 ひき算

5月上旬～中旬（9時間）
p.34～47

◆単元の目標と評価規準

○2位数の減法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(ウ)(エ)、A(2)イ(ア)】

- ・2位数－2位数の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、減法の計算が確実にできる。また、減法に関して成り立つ性質や、加法と減法との相互関係について理解している。＜知・技＞
- ・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。＜思・判・表＞
- ・減法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	3 4 5 4 5	(2けた－2けたの計算)	①②2位数－2位数で繰り下がりのない減法の計算のしかたを理解する。	・「のこりは何円かな？」の活動をきっかけに、場面絵を見て減法の問題を作り、既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・35－12のような、2位数－2位数で繰り下がりのない減法の計算のしかたを考える。	・2位数の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解している。	・2位数の減法の計算のしかたを、1位数の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			③2位数－2位数で繰り下がりのない減法の筆算のしかたを理解する。	・35－12のような、2位数－2位数で繰り下がりのない減法の筆算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「35－12の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り下がりのない2位数の減法の筆算形式を知り、筆算ができる。	・2位数の減法の計算のしかたと筆算のしかたを関連づけて考えている。
			④⑤⑥2位数－2位数で繰り下がりのある減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。 ※（問題追究力モデル） 本時の活動をとおして、「だったら!？」の見つけ方を学習する。	・34－18のような、2位数－2位数で繰り下がりのある減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「34－18の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・加法と減法を比較して共通する見方を振り返るとともに、その見方を使って解決できそうな新たな問題を発見する。	・繰り下がりのある2位数の減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
			⑦何十－何十何の計算や、2位数－2位数＝1位数の計算ができる。また、2位数－1位数で繰り下がりのある減法の計算ができる。	・60－32のような、何十からひく減法の計算や、52－49のような、答えが1位数になる減法の計算のしかたを考える。 ・71－3のような、減数が1位数の減法の計算のしかたを考える。	・2位数－2位数＝1位数の減法や、2位数－1位数で繰り下がりのある減法の筆算ができる。	
		(計算のたしかめ)	⑧加法と減法の相互関係と計算の確かめのしかたを理解する。	・23－7＝16と16＋7＝23を比べることをとおして、加法と減法との相互関係を知り、計算の確かめに用いる。 ★まとめアニメ「たし算とひき算のかんけい」を使って確認・説明する。	・加法と減法との相互関係について理解し、計算の確かめに用いることができる。	
1	4 7 6 5	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「ひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・減法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、減法を生活や学習に活用しようとしていたりしている。

4 長さ

5月下旬～6月上旬（8時間）
p.48～61

◆単元の目標と評価規準

○長さの単位「cm、mm」について知り、測定の意味を理解し、単位を適切に選択して長さを測定する力を身につける。また、長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】

- ・長さの単位「cm、mm」について知り、測定の意味と単位との関係を理解し、長さについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。＜知・技＞
- ・身のまわりのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。＜思・判・表＞
- ・長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
6	4 8 5 7	長さのあらわし方	①②長さの意味、長さの単位「cm」、長さの測定(普遍単位)を理解する。	・「同じ長さになるかな?」の活動をきっかけに、長さを表したり伝えたりすることに関心をもつ。 ・しおりの長さをいろいろな具体物を使って表す活動をとおり、任意単位を用いた長さの表し方を考える。 ★まとめアニメ「長さのあらわし方」を使って確認・説明する。 ・長さの単位「センチメートル(cm)」を知る。 ・目盛りテープを用いて長さを測る。	・長さの単位「cm」と測定の意味を理解している。	・測定するものの特徴に着目し、基準とする大きさを決めて数値化するしかたを考えている。
		(1cmよりみじかい長さ)	[つながるミカタ]	・長さの表し方について、「もとにする大きさのいくつ分」という見方を振り返り、身のまわりのものの長さを測定することにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・長さの単位「mm」を知り、1cm=10mmの関係を理解している。また、ものさしの目盛りのしくみを理解している。	・1cmより短いのはたの長さを表す必要から、cmより小さな単位で表すことを考えている。
			③④長さの単位「mm」と単位の関係、ものさしの機能と使い方を理解する。	・はがきの縦の長さを測る活動をとおり、長さの単位「ミリメートル(mm)」を知り、1cm=10mmを知る。 ・ものさしのしくみを知る。 ★まとめアニメ「長さのたんい ミリメートル」を使って確認・説明する。 ★動画「長さのはかり方」を見て確認する。		
			⑤直線の意味とかき方を理解する。	・直線の意味を知り、ものさしを使って直線をかく。 ★まとめアニメ「直線」を使って確認・説明する。 ★動画「直線のかき方」を見て確認する。	・直線の意味とかき方を理解し、決まった長さの直線をかくことができる。	
		(長さの計算)	⑥長さについて加法性が成り立つことを理解する。	・折れ曲がった線の長さを調べることをとおして、長さは加減計算ができることを知る。	・長さの加法性について理解し、複名数で表された長さの加減計算ができる。	
1	5 8	学んだことをつかおう	⑦身のまわりのものの長さについて、およその見当をつけ、測定することができる。	・「長さの図かんをつくろう」という目的意識から、身のまわりのものの長さをものさしを使って測定し、まとめる。	・身のまわりのものの長さについておよその見当をつけ、ものさしを使って測定することができる。	
1	5 9 6 1	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「長さ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[ものさし計算き]	・ものさしの目盛りの付き方に着目し、2つの「ものさし計算き」を組み合わせ、12+4や12-4の答えが求められるしくみについて考える。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・長さの測定に主体的に取り組む、生活や学習に活用しようとしている。

5 100より大きい数

6月上旬～中旬（10時間）
p.62～77

◆単元の目標と評価規準

○3位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方を理解し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考える力を身につけるとともに、十や百を単位としてみて、何十や何百の加法及び減法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数を表すことに進んで関わり、数のまとまりに着目して数えたり表したりすることのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(イ)】

- ・3位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方、数の大小や順序、及び数の相対的な大きさについて理解している。また、簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算ができる。＜知・技＞
- ・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かしている。また、簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算のしかたを考えている。＜思・判・表＞
- ・数を表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
7	6 2 5 7 3	数のあらわし方	①1000未満の数のよみ方、表し方、3位数の構成と位取りのしくみ(百の位)を理解する。	・「何人いるかな?」の活動をきっかけに、子どもの数を数える活動をとおして、既習の範囲を超える数を数えたり表したりすることに関心をもつ。 ・3位数の十進位取り記数法によるよみ方、表し方を知る。 ・百の位について知る。 ★まとめアニメ「百の位」を使って確認・説明する。	・百の位について知り、3位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	・100までの数の既習事項や、ものの個数を実際に数える活動をもとに、3位数の表し方や比べ方を考えている。
			②空位のある3位数のよみ方、表し方を理解する。	・305のような、空位のある3位数のよみ方、表し方を知る。	・空位のある3位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	
			③3位数の大小比較のしかたを理解する。	・赤組、白組、青組の点数を比べることをとおして、3位数の大小比較のしかたを考える。 ・記号「>、<」を知る。 ★まとめアニメ「数の大小」を使って確認・説明する。	・3位数の大小について理解し、「>、<」を用いて表すことができる。	
			④数直線をもとに、3位数の順序、大小、系列について理解する。	・数直線(数の線)で目盛りがどんな数を表しているかを調べ、数を位置づけたり、数の大小を比べたりする。	・数直線での3位数の位置、順序、大小、系列を理解している。	
			[算数ひろば]*	・数の線のことを数直線ということを知る。		
		(10がいくつ)	[数の大きさをくらべよう]	・0から9までの数字カードで3位数を作って大小を比べる。	・数の相対的な大きさを捉え、何百何十の数を10をもとにしていくつ分かで表すことができる。	・数の構成や相対的な大きさに着目し、数を多面的に捉えて表している。
			⑤数の相対的な大きさについて理解する。	・10を16個集めた数の大きさについて考える。 ・250は10を何個集めた数かを考える。		
(千)	⑥1000のよみ方、書き方を理解する。		・ひよこの数を数えることをとおして、100を10個集めた数を千といい、1000と書くことや、999より1大きい数であることを知る。 ★まとめアニメ「千」を使って確認・説明する。	・千について知り、1000のよみ方、書き方を理解している。		
	⑦数を多面的に捉えて表すことができる。	・位取り板や数直線を用いて、392を多面的に捉えて表す。				

2	7 4 5 7 5	何十、何百の計算	⑧十を単位としてみられる数の加法、減法の計算のしかたを理解する。	・70+50、120-30などの加法、減法の計算のしかたを10をもとにして考える。	・10をもとにした加法、減法の計算ができる。	・簡単な場合の3位数などの加法、減法の計算のしかたを、10や100をもとにして考えている。
			[つながるミカタ]	・何十+何十の計算のしかたについて、「10のまとまり」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・10や100をもとにした加法、減法の計算ができる。	
			⑨百を単位としてみられる数の加法及び減法の計算のしかたを理解する。	・300+400、700-200、430+20、360-40などの加法、減法の計算のしかたを10や100をもとにして考える。		
1	7 7 5	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「100より大きい数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・身のまわりのものの個数を10や100のまとまりにして数えたり、数えたものを数字で表したり、3位数や1000を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。 ★本単元で、まなびリンク「プログラミング教材」を使用して、p.145「ターゲットの数をつくろう!」の活動を扱うことができる。						

● たし算とひき算の図

6月下旬（2時間）
p.78～81

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	7 8 5 8 1		①加法と減法のテープ図の見方やかき方を理解する。	・青いりんごが6個、赤いりんごが8個、あわせて14個ある場面で、テープ図と式を関連づけて捉え、加法と減法のテープ図の見方やかき方を知る。		・加法と減法の相互関係をもとに、テープ図の見方やかき方を考えている。
			②加法や減法の問題場面をテープ図に表すことができる。	・買い物の場面で、加法や減法の問題をテープ図や式に表して解決する。	・加法、減法の問題場面をテープ図や式に表すことができる。	
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・図を用いると場面や数量の関係が捉えやすくなることに気づき生活や学習に活用しようとしている。						

6 たし算とひき算

6月下旬～7月中旬（9時間）
p.82～95

◆単元の目標と評価規準

○百の位に繰り上がる2位数などの加法及びその逆の減法や、百の位への繰り上がり・繰り下がりが無い3位数の加法及び減法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法及び減法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)、内(2)(3)】

・2位数+1・2位数=百何十何の加法及びその逆の減法や、百の位への繰り上がりのない3位数+1・2位数、百の位からの繰り下がりが無い3位数-1・2位数の筆算のしかたを理解し、加法及び減法の計算が確実にできる。また、()の意味や用い方について理解している。＜知・技＞

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。＜思・判・表＞

・加法及び減法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
3	8 2 5 8 6	百の位に繰り上がるたし算	①2位数+2位数で百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・「何があるかな？」の活動をきっかけに、43+29、43-15のような既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに興味をもつ。 ・72+63のような、2位数+2位数で百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「72+63の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			②2位数+2位数で繰り上がりが2回ある加法の計算ができる。	・83+49のような、繰り上がりが2回ある加法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「83+49の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り上がりが2回ある加法の筆算ができる。	
			③繰り上がって答えの十の位が空位になる加法の計算ができる。また、百の位への繰り上がりのない3位数+1・2位数の加法の計算ができる。	・68+37や95+6のような、答えの十の位が0になる加法の計算のしかたを考える。 ・437+6や719+33のような、百の位への繰り上がりのない3位数+1・2位数の加法の計算のしかたを考える。	・繰り上がって答えの十の位が空位になる加法や、百の位への繰り上がりのない3位数+1・2位数の加法の筆算ができる。	
5	8 7 5 9 3	百の位からくり下がるひき算	④百何十何-2位数で百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・125-43のような、百何十何-2位数で百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「125-43の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			⑤百何十何-2位数で繰り下がりが2回ある減法の計算ができる。	・163-79のような、百何十何-2位数で繰り下がりが2回ある減法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「163-79の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百何十何-2位数で繰り下がりが2回ある減法の筆算ができる。	
			⑥百の位から波及的に繰り下がる減法の計算ができる。	・104-37のような、百の位から波及的に繰り下がる減法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「104-37の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百の位から波及的に繰り下がる減法の筆算ができる。	
			⑦答えが1位数になる減法の計算や、百何-1位数=2位数の減法の計算ができる。また、百の位からの繰り下がりのない3位数-1・2位数の減法の計算ができる。	・106-98のような、百何-2位数=1位数の減法の計算や、103-6のような、百何-1位数=2位数の減法の計算のしかたを考える。 ・282-6、271-34のような、百の位からの繰り下がりのない3位数-1・2位数の減法の計算のしかたを考える。	・答えが1位数になる減法や、百何-1位数=2位数の減法の筆算ができる。	
		(3つの数のたし算)	⑧加法の結合法則を用いた計算や、()を用いた式について理解する。	・15+6+4の答えの求め方を考える場面をとおして、()の意味と用い方、加法の結合法則を知る。 ★まとめアニメ「たし算のきまり」を使って確認・説明する。	・加法の結合法則が成り立つことや、()の意味や用い方を理解し、式に表すことができる。	

1	9 5	9 4 5	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「たし算とひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・加法及び減法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、加法及び減法を生活や学習に活用しようとしていたりしている。							

■ 何人いるかな

7月中旬（1時間）

p.96

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	9 6		①重なりがある場合などの順序数の加法を理解する。	・ある子どもの位置が前から8番め、後ろから4番めのとき全部で何人いるかを考え、加法の式に表す。 ・ある子どもの前に6人、後ろに5人いるとき全部で何人いるかを考え、加法の式に表す。		・順序数の加法の場面を図などを用いて表し、計算のしかたを考えている。

7 時こくと時間

7月中旬(4時間)
p.97~103

◆単元の目標と評価規準

○時刻と時間の意味、時間の単位「日、時、分」について知り、日常生活の中で用いる力を身につける。また、時刻と時間を表すことに進んで関わろうとする態度を養う。【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】

- ・時間の単位「日、時、分」について知り、それらの関係を理解している。＜知・技＞
- ・時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かしている。＜思・判・表＞
- ・時刻と時間を表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
2	97 101		①時刻と時間の意味や、時間の単位「時、分」の関係を理解する。	・「何時に何をしたいかな？」の活動をつなげ、時計の読み方を振り返り、ハイキングの日の時刻や時間を調べる。 ★シミュレーション「時計」を使って活動する。 ・9時、9時20分などの時刻をよんだり、時間を求めたりする。 ・時間の単位「時、分」を知り、1時間=60分間を知る。 ★まとめアニメ「時こくと時間」「1分間」「1時間」を使って確認・説明する。	・時刻と時間の意味、時間の単位「時、分」と単位の間隔を理解し、時刻や時間を表すことができる。	・時間の単位に着目し、短針や長針の動きをもとに日常生活における時刻や時間の求め方を考えている。
			②午前と午後、正午の意味や、時間の単位「日、時」の関係を理解する。	・1日の生活を調べることをとおして、「午前、午後、正午」を知り、1日=24時間を知る。 ★まとめアニメ「1日」を使って確認・説明する。 ・模型時計を使って、簡単な場合について時刻や時間を求める問題を出し合う。	・午前と午後、正午の意味、時間の単位「日、時」と単位の間隔を理解している。	
1	102	学んだことをつかおう	③日常生活の場面と関連づけて、時刻や時間を表すことができる。	・「夏休みの計画を立てよう!」という目的意識から、夏休みの1日の時間の使い方について考え、時刻や時間のお話をする。		
1	103	まとめ	④学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「時こくと時間」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

- ・時刻と時間の表し方を主体的に考えたり、生活や学習に活用しようとしていたりしている。

■ 筆算をつくろう

7月中旬（1時間）

p.104

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	104		① 数字カードを使った活動をとおり、筆算のしくみの理解を深める。	・ 筆算のしくみをもとに、決められた枚数の数字カードを使って正しい筆算の作り方を考える。		・ 筆算のしくみをもとに、決められた枚数の数字カードを使って正しい筆算の作り方を考えている。

◎ ふくしゅう②

	頁	学習活動
	105	・ 「長さ」「100より大きい数」「たし算」「ひき算」の復習をする。

8 水のかさ

9月上旬～中旬（7時間）

p.106～116

◆単元の目標と評価規準

○かさの単位「L、dL、mL」について知り、測定の意味を理解し、単位を適切に選択してかさを測定する力を身につける。また、かさを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】

- ・かさの単位「L、dL、mL」について知り、測定の意味と単位の関係を理解し、かさについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。＜知・技＞
- ・身のまわりのものの特徴に着目し、目的に応じた単位でかさを的確に表現したり、比べたりしている。＜思・判・表＞
- ・かさを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
5	106 5 113	かさのあらわし方	①かさの意味、かさの比べ方を理解する。	・「水のかさは同じかな?」の活動をきっかけに、かさを表したり伝えたりすることに関心をもつ。 ・2つの水筒に入っている水のかさを比べることをとおして、かさの比較・測定のみしかたや意味について考える。	・かさの任意単位による測定の意味を理解している。	・かさの比較や測定について、長さの場合をもとにして、基準とする大きさを決めて数値化するしかたを考えている。
		(リットル)	②かさの単位「L」を理解する。	・やかんとポットに入る水のかさを調べることとおして、かさの単位「リットル(L)」を知る。	・かさの単位「L」を理解している。	
		(小さいかさのたんい)	[つながるミカタ]	・かさの表し方について、「1Lのいくつ分」という見方を振り返り、1Lより少ないかさを表すことにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・かさの単位「dL」を知り、1L=10dLの関係を理解している。	
			③かさの単位「dL」と単位の関係を理解する。	・1Lに満たない水のかさを調べることとおして、かさの単位「デシリットル(dL)」を知り、1L=10dLを知る。 ★まとめアニメ「かさのたんい デシリットル」を使って確認・説明する。	・既習の単位では表せないはしたのかさを表す必要から、1Lを10に分けた単位「dL」や、1dLを100に分けた単位「mL」を作ることと考えている。	
		(かさの計算)	④かさの単位「mL」と単位の関係を理解する。	・ペットボトルに入る水のかさを調べることとおして、かさの単位「ミリリットル(mL)」を知り、1L=1000mL、1dL=100mLを知る。		
			⑤かさについて加法性が成り立つことを理解する。	・ポットとペットボトルの水のかさの合計や違いを求めることをとおして、水のかさは加減計算ができることを知る。	・かさの加法性について理解し、複名数で表されたかさの加減計算ができる。	
1	114	学んだことをつかおう	⑥身のまわりのもののかさについて、およその見当をつけ、測定することができる。	・「水のかさの図かんをつくろう」という目的意識から、身のまわりのもののかさを1リットルますを使って測定し、まとめる。	・身のまわりのもののかさについておよその見当をつけ、1リットルますを使って測定することができる。	
1	5	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「水のかさ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[くらしの中の水のかさ]	・日常生活の中でどれぐらいの水を使っているかを知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・かさの測定に主体的に取り組む、生活や学習に活用しようとしている。

■ ロボットレース

9月中旬（1時間）

p.117

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	117		①直線の作図の習熟を図る。	・じゃんけんをしながら、決められた長さの直線をかいてゴールを目ざすゲームに取り組む。	・ものさしを用いて直線を作図することができる。	

9 三角形と四角形

9月中旬～下旬（9時間）

p.118～133

◆単元の目標と評価規準

○三角形や四角形、長方形、正方形、直角三角形について理解し、図形を構成する要素に着目して特徴を捉え、構成のしかたを考える力を身につける。また、図形の特徴を見いだすことに進んで関わり、身のまわりものの形を三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形として捉えるなど、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、A(1)イ(ア)、内(5)】

・三角形や四角形、長方形、正方形、直角三角形について理解し、紙を折って構成したり、格子点を使って作図したりすることができる。<知・技>

・三角形や四角形の辺や頂点に着目し、構成のしかたを考えるとともに、身のまわりものの形を三角形や四角形、長方形、正方形、直角三角形として捉えている。<思・判・表>

・三角形や四角形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
7	118 119 120 121 122 123 124 125 126 127	(直角)	①②三角形、四角形の意味や、平面図形の構成要素(辺、頂点)を理解する。	・「どうぶつをかこう!」の活動をきっかけに、囲んでできた形に関心をもつ。 ・囲んでできた形の直線の数やかどの数に着目して、3本の直線で囲まれた形を三角形、4本の直線で囲まれた形を四角形ということを知る。 ・辺、頂点の意味や、三角形、四角形の辺、頂点の数について知る。 ★まとめアニメ「三角形」「四角形」「辺、ちょう点」を使って確認・説明する。	・三角形、四角形の意味や、辺、頂点の意味を理解している。	・点と点を直線で結んでできた図形(三角形、四角形)について、直線の本数に着目して分類し、その特徴を見いだしたり、構成のしかたを考えたりしている。
			[算数ひろば]*	・5本の直線で囲まれた形を五角形ということを知る。		
			[三角形や四角形を見つけよう] ③直角の意味を理解する。	・身のまわりから三角形や四角形のものを探す。 ・紙を4つに折って、ノートのかどにぴたり重なる形を作ることとおして、直角について知る。 ★まとめアニメ「直角」を使って確認・説明する。	・直角の意味を理解している。	
		(長方形と正方形)	④長方形の意味、性質、辺の相等関係を理解する。	・紙の端を折って四角形を作ることとおして、長方形について知る。 ★まとめアニメ「長方形」「長方形のせいしつ」を使って確認・説明する。	・長方形の意味や性質を理解している。	・四角形(長方形、正方形)や三角形(直角三角形)について、直角や辺の相等関係に着目して分類し、その特徴を見いだしたり、構成のしかたを考えたりしている。
			[つながるミカタ]	・長方形の特徴を調べるときの観点として、「かどの形」「辺の長さ」に着目したことを振り返り、ほかの図形にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・正方形の意味や性質を理解している。	
			⑤正方形の意味、性質、辺の相等関係を理解する。	・長方形の紙を折って、短辺の長さにそろえて切った図形を調べることをとおして、正方形について知る。 ★まとめアニメ「正方形」を使って確認・説明する。		
		(直角三角形)	⑥直角三角形の意味、性質を理解する。	・長方形や正方形の紙を半分に切った図形を調べることをとおして、直角三角形について知る。 ★まとめアニメ「直角三角形」を使って確認・説明する。	・直角三角形の意味や性質を理解している。	
			⑦方眼を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	・方眼を使って長方形、正方形、直角三角形を作図する。	・方眼を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	
1	130 131 132 133	学んだことをつかおう	⑧敷き詰め模様の構成、観察をとおして、平面図形の広がりや図形の美しさを捉え、図形についての感覚を豊かにする。	・「きれいなもようを作ろう!」という目的意識から、折り紙で作った長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めた模様を作る。	・長方形、正方形、直角三角形をきまりに従って並べ、美しい模様を作ることができる。	・長方形、正方形、直角三角形の構成や分解のしかたを考えている。
			[長方形や正方形を見つけよう]	・身のまわりから長方形や正方形のものを探す。		

1	1 3 2 3 5	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「三角形と四角形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・三角形や四角形の特徴を調べたり、構成したりすることに主体的に取り組むとともに、身のまわりから図形を見つけようとしたり、長方形、正方形、直角三角形を敷き詰める活動をとおして、できあがる図形の美しさを感じたりしている。						

■ タングラム

9月下旬（1時間）

p.134

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	1 3 4		①図形についての感覚を豊かにする。	・タングラムを用いた形作りをする。	・身のまわりのものの形を図形として捉え、三角形や四角形を組み合わせて構成することができる。	

■ プログラミングにちょうせん 「ターゲットの数をつくろう！」

	頁	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）
	1 4 5	・ロボットを動かして(1)、(10)、(100)の星を集めて、ターゲットの数24や245をつくる。また、ターゲットの数を変えた場合のプログラムも考える。 ★プログラミング教材「ターゲットの数をつくろう！」を使って活動する。

< 下巻 >

10 かけ算

10月上旬～11月上旬（20時間）

p4～23

◆単元の目標と評価規準

○乗法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法について考えることに進んで関わり、乗法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)、A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、A(3)イ(ア)(イ)】

- ・乗法の意味や式について理解し、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできる。(5、2、3、4の段) <知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。<思・判・表>
- ・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。<態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
1 9	4 5 2 1	(5の段と2の段の九九)	①②乗法の意味、乗法の式について理解する。	・「何人のっているかな?」の活動をきっかけに、乗り物に乗っている人数を調べる活動をとおして、同じ数のまとまりに着目して数えることに興味をもつ。 ★シミュレーション「何人乗っているかな?」を使って活動する。 ・同じ数のまとまりに着目して、数をおはじきで表す。 ・3人ずつ4台分で12人になる場面を表すことをとおして、乗法の意味と式、「かけ算」の意味を知る。 ★まとめアニメ「かけ算」を使って確認・説明する。	・乗法の意味や式の表し方を理解している。	・乗法が用いられる場面を具体物や図などを用いて考え表現するとともに、乗法の式を、具体的な場面に結びつけて考えている。
			③乗法の式について理解を深める。 [おはじきをつかってあらわそう!]	・場面絵を見て、何がわかれば乗法の式に表すことができるか考える。 ・乗法の式に合うようにおはじきを並べる。	・乗法が用いられる場面で、「1つ分の数」「いくつ分」「全部の数」の関係を捉えて式に表すことができる。	
			④乗法の答えの求め方を理解する。	・ボールが3個入った入れ物が5本あるときのボールの数を求めることをとおして、3×5の乗法の答えは累加の式3+3+3+3+3で求められることを知る。 ★まとめアニメ「かけ算の答えのもとも方」を使って確認・説明する。	・乗法は累加で答えを求めることができることを理解している。	
			⑤乗法の式を、具体的な場面と関連づけて用いることができる。	・被乗数と乗数が入れ替わる問題場面をそれぞれ乗法の式に表すことをとおして、それらの違いについて考える。	・「1つ分の数」と「いくつ分」の意味について理解を深め、乗法の式を具体的な場面と関連づけて用いることができる。	
			[つながるミカタ]	・かけ算の式について、「同じ数ずつ」という見方を振り返り、次の問題解決につなげる。	・身のまわりから乗法が用いられる場面を見だし、乗法の式に表すことができる。	
			⑥身のまわりのものを乗法の式で表すことができる。	・身のまわりから乗法の式で表せるものを見つけ、式や答えを書く。		
			⑦5の段の九九を構成することができる。	・1箱5個入りのドーナツが何箱かあるときのドーナツの数の求め方を考える。 ・図をもとに5×1から5×9の答えを求め、5の段の九九を構成する。 ・5×1=5を「五ーが5」と唱え、このような唱え方を九九ということを知る。	・乗法九九について知り、累加などによって、5の段の九九を構成することができる。	・計算のしかたを振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それをもとに乗法を構成したりしている。
			⑧⑨5の段の九九に習熟する。	・5の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・5の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・5の段の九九を唱えることができる。	

		(3のだんと4のだんの九九)	⑩2の段の九九を構成することができる。	・1包み2個入りのおにぎりが5包みあるときの個数を求めることをとおして、2の段の九九を構成する。	・累加などによって、2の段の九九を構成することができる。
			⑪⑫2の段の九九に習熟する。	・2の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・2の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・2の段の九九を唱えることができる。
			⑬3の段の九九を構成することができる。	・1パック3個入りのプリンが4パックあるときの個数を求めることをとおして、3の段の九九を構成する。 ・かけられる数、かける数の意味を知る。	・答えがいくつずつ増えているかなどを用いて、3の段の九九を構成することができる。
			⑭⑮3の段の九九に習熟する。	・3の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・3の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・3の段の九九を唱えることができる。
			⑯4の段の九九を構成することができる。	・1箱4個入りのチョコレートが5箱あるときの個数を求めることをとおして、4の段の九九を構成する。 ・乗数が1増えると積はいくつ増えるかを調べる。	・乗数と積の関係などを用いて、4の段の九九を構成することができる。
			⑰⑱4の段の九九に習熟する。	・4の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・4の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・4の段の九九を唱えることができる。
		(かけ算のもんだいづくり)	⑲乗法の式に合う問題を作ることができる。	・場面絵から乗法の式で表せるものを見つけて問題を作る。	・乗法の式に合う問題を作ることができる。
1	2 3	2 3 まとめ	⑳学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・乗法の意味や計算のしかたについて、累加や乗法に関して成り立つ簡単な性質を用いるなどして主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしている。					

■ 九九であそぼう

11月上旬 (2時間)
p.24~26

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
2	2 5		①②九九に習熟する。	・九九カードを用いたゲーム「カルタあそび」「大きいほうが勝ち」「九九ビンゴゲーム」をとおして計算練習をする。	・2の段から5の段までの九九が確実にできる。	
	2 6		[九九のれんしゅう]	・九九の練習をする。 ★ <u>シミュレーション</u> 「九九カード」を使って活動する。		

11 かけ算九九づくり

11月上旬～12月上旬（18時間）
p.27～46

◆単元の目標と評価規準

○乗法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法について考えることに進んで関わり、乗法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)、A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、A(3)イ(ア)(イ)】

- ・乗法の意味や式について理解し、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできる。(6、7、8、9、1の段) <知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。 <思・判・表>
- ・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。 <態度>

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
1 7	27 34 45	(6の段と7の段の九九)	①九九表と九九づくりの図のしくみを理解し、用いることができる。	・「もっと九九をやってみよう!」の活動をきっかけに、2の段から5の段までの九九を振り返り、それらの答えを九九表に書く。 ・九九づくりの図を用いて、6×2の答えの求め方を説明する。 ★シミュレーション「九九の表」「九九づくりの図」を使って活動する。	・九九表に、2の段から5の段までの九九の答えを書くことができる。	・九九づくりの図を用いて、九九の答えの表し方を考えている。
			②6の段の九九を構成することができる。	・6の段の九九を、乗数と積の増え方に着目して構成する。 ・6の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係などを用いて、6の段の九九を構成することができる。	・計算のしかたを振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それをもとに乗法を構成したりしている。
			③④6の段の九九に習熟する。	・6の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・6の段の九九を、カードを使って練習する。	・6の段の九九を唱えることができる。	
			⑤7の段の九九を構成することができる。	・7の段の九九を、乗数と積の増え方に着目して構成する。 ・7の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係などを用いて、7の段の九九を構成することができる。	
			⑥⑦7の段の九九に習熟する。	・7の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・7の段の九九を、カードを使って練習する。	・7の段の九九を唱えることができる。	
		(8の段と9の段の九九)	⑧8の段の九九を構成することができる。	・8の段の九九を工夫して構成する。 ・8の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係や交換法則などを用いて、8の段の九九を構成することができる。	
			⑨⑩8の段の九九に習熟する。	・8の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・8の段の九九を、カードを使って練習する。	・8の段の九九を唱えることができる。	
			⑪9の段の九九を構成することができる。	・9の段の九九を工夫して構成する。 ・9の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係や交換法則などを用いて、9の段の九九を構成することができる。	
			⑫⑬9の段の九九に習熟する。	・9の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・9の段の九九を、カードを使って練習する。	・9の段の九九を唱えることができる。	
		(1の段の九九)	⑭1の段の九九を構成することができる。	・1の段の九九を構成する。 ・1の段の九九を表にまとめる。 ・1の段の九九の唱え方を知り、練習する。	・1の段の九九を唱えることができる。	
		(かけ算と倍)	⑮倍の意味を理解する。	・2倍や3倍などの意味を知り、何倍かした長さを求めるには乗法を用いることを知る。 ★まとめアニメ「倍」を使って確認・説明する。 ・もとの長さを自分で決めて、その5倍の長さのテープを作る。	・倍の意味を理解し、乗法の式に表したり、もとの長さの何倍かの長さを作ったりすることができる。	

		(かけ算をつかって)	⑯乗法を用いる文章題を解決することができる。	・乗法を用いる文章題に取り組む。	・乗法が用いられる場面 を式に表し、文章題を解く ことができる。	
			⑰九九を活用して問題を解決し、乗法について理解を深める。 ※(問題解決力モデル) 本時の活動をとおり、問題解決の進め方を学習する。	・牛乳の本数の合計を求める場面で、九九が適用できるように分割したり移動したりして、工夫して求めるしかたを考え説明する。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。		・ものの数を求める場面で、九九が適用できるように分割したり移動したりするなどの工夫を考え、図や式、言葉などを用いて表現している。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
1	4 6	まとめ	⑱学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「かけ算九九づくり」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・乗法の意味や計算のしかたについて、累加や乗法に関して成り立つ簡単な性質を用いるなどして主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしてしている。						

■ 九九ジグソーパズル

12月上旬 (1時間)
p.47

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	4 7		①九九に習熟し、乗法の性質について理解を深める。	・九九表を分解して作ったジグソーパズルに取り組む。		・九九ジグソーパズルの解決のしかたを、九九表における答えの並び方に着目して考えている。

12 長いものの長さ

12月中旬（5時間）
p.48～54

◆単元の目標と評価規準

○長さの単位「m」について知り、単位を適切に選択して長さを測定する力を身につける。また、長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】

・長さの単位「m」について知り、単位の関係を理解し、長さについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。＜知・技＞

・身のまわりのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。＜思・判・表＞

・長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
3	4 8 5 2		①長さの単位「m」と単位 の関係を理解する。	・「長さをようしよう!」の活動をきっかけ に、長さについての既習事項を振り返りな がら、手を広げた長さや黒板の横の長さ、 床から天井までの高さを予想する。 ・両手を広げた長さを測る活動をととし て、長さの単位「メートル(m)」を知り、1 m=100cmを知る。 ★まとめアニメ「長さのたんい メートル」 を使って確認・説明する。	・長さの単位「m」を知り、 1m=100cmの関係を理 解している。	・大きな長さを表す必要か ら、cmより大きい単位で 表すことを考えている。
			②長さを複名数や単名数 で表すことができる。	・1mのものさし4つ分とあと半分の長さ を、4m50cmと複名数表記をする。また、 それをcm単位で表す。	・長さを複名数や単名数 で表すことができる。	
			③m単位の長さについて も加法性が成り立つこと を理解する。	・天井の高さを2m20cm+70cm=2m90 cmと求めることをとおして、長さがmで表 されている場合も加減計算ができること を知る。	・複名数で表された長さ の加減計算ができる。	
1	5 3	学んだことをつかお う	④身のまわりのものの長 さについて、およその見当 をつけ、測定することがで きる。	・「(もっと長い)長さの図かんを作ろう」と いう目的意識から、紙テープに目盛りを つけて1mより長いものさしを作り、身のま わりのものの長さを測定し、まとめる。	・1mより長いものの長さ についておよその見当を つけ、目盛りをつけたテ ープやものさしを使って測定 することができる。	
1	5 4	まとめ	⑤学習内容の理解を確認 し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本 的な問題を解決すること ができる。	・「長いものの長さ」の学 習のよさや見方・考え方を 振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・長さの測定に主体的に取り組む、生活や学習に活用しようとしている。

◎ ふくしゅう③

頁	学習活動
5 5	・「たし算とひき算」「水のかさ」「三角形と四角形」「かけ算」「かけ算九九づくり」の復習をする。

■ 数をあらわそう

12月下旬（1時間）
p.56～57

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
1	5 6 7		①1つの数をほかの数の 和や差、積としてみるな ど、数についての感覚を豊 かにする。	・式や図、絵などを用いて、3や10のいろ いろな表し方を工夫する。また、ほかの数の 表し方も考えて、カレンダーを作る。 ★ワークシート「算数カレンダー」を使って 活動する。		・1つの数を多面的に捉 え、ほかの数の和や差、積 とみて式で表したり、図や 絵で表したりしている。

13 九九の表

1月上旬～中旬（6時間）
p.58～66

◆単元の目標と評価規準

○乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解し、それらの性質を見いだしたり、簡単な場合について2位数と1位数との乗法の計算のしかたを考える場合などに活用したりする力を身につける。また、乗法に関して成り立つ性質について考えることに進んで関わり、それらを用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(3)ア(ウ)(オ)、A(3)イ(ア)、内(4)】

・乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解している。また、簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算のしかたを知っている。＜知・技＞

・数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を見いだすとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。＜思・判・表＞

・乗法に関して成り立つ性質を見いだすことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
5	5 8 5 6 5		①九九の答えの一の位の数字の規則性に気づき、九九のきまりについて関心を高める。	・「九九のもようをつくろう!」の活動をきっかけに、円上に書かれた数字を九九の答えの一の位の数字の順に直線で結ぶと規則的な模様ができることに気づき、九九のきまりに関心をもつ。		・九九表を見て、いつも成り立つ性質を見だし、それを確かめている。
			②九九表を見て、さまざまなきまりを見つけができる。 九九表を見て、乗数と積の関係を理解する。	・九九表を見て、九九のきまりについて学習したことや気づいたことを発表する。 ★シミュレーション「九九の表」を使って活動する。 ・どの段の九九も、乗数が1増えると積が被乗数の分だけ増えることを知る。 ★まとめアニメ「かける数と答えのきまり」を使って確認・説明する。	・乗数と積の関係を理解している。	
			③九九表を見て、乗法の交換法則を理解する。	・九九表の中に同じ答えがあることに気づき、乗法の交換法則を知る。 ★まとめアニメ「答えが同じになる九九のきまり」を使って確認・説明する。	・乗法の交換法則が成り立つことを理解している。	
			④九九表を見て、乗法の分配法則を理解する。	・3の段の答えは「1の段+2の段」のようになっていることについて、式や図を用いて説明する。	・乗法の分配法則が成り立つことを理解している。	
			⑤乗法に関して成り立つ性質をもとに、2位数と1位数との乗法の計算のしかたを考えることができる。	・ 4×10 、 4×11 、 4×12 、 10×4 、 11×4 、 12×4 の答えの求め方を考え、九九表を12まで広げる。		・12までの2位数と1位数との乗法について、乗法に関して成り立つ性質などをもとに計算のしかたを考えている。
			[もっとやってみよう]*	10×9 の答えをもとにして、 10×10 、 10×11 、 10×12 などの2位数 $\times$ 2位数の答えの求め方を考える。		
1	6 6	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「九九の表」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・乗法に関して成り立つ性質に関心をもち、主体的に調べたり用いたりしようとしている。

14 はこの形

1月下旬(5時間)
p.67~72

◆単元の目標と評価規準

○長方形や正方形の面で構成される箱の形について理解し、図形を構成する要素に着目して特徴を捉え、構成のしかたを考える力を身につける。また、箱の形の特徴を見いだすことに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 B(1)ア(ウ)、B(1)イ(ア)】

- ・長方形や正方形の面で構成される箱の形について理解し、それらを構成したり分解したりすることができる。＜知・技＞
- ・図形を構成する要素に着目し、構成のしかたを考えているとともに、身のまわりのものの形を図形として捉えている。＜思・判・表＞
- ・箱の形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
3	6 7 7 0		①箱の形をしたものの構成要素(面)について理解する。	・「お気に入りの箱を作ろう!」の活動をきっかけに、箱の形を観察したり紙に写し取ったりする。 ・面の意味を知り、箱の形の面の形や数を調べる。	・箱の形の面の意味や、その形や数を理解している。	・箱の形について、図形を構成する要素(面、辺、頂点)に着目して特徴を捉えたり、構成のしかたを考えたりしている。
			②長方形や正方形の面をつないで、箱を構成することができる。	・長方形や正方形の面をつないで、箱を作り、そのときに気をつけたことを発表する。	・箱の形の面のつながりについて理解し、箱の形を構成することができる。	
			③箱の形をしたものの構成要素(辺、頂点)について理解する。	・ひご粘土玉で作った箱の形を観察して、箱の形の辺、頂点の意味を知り、それらの数を調べる。 ★まとめアニメ「辺、ちょう点」を使って確認・説明する。	・箱の形の辺、頂点の意味や、それらの数を理解している。	
1	7 1	学んだことをつかおう	④さいころの展開図を組み立てたときに向かい合う面を考え、立体図形と平面図形の関係について理解を深める。*	・「さいころを作ろう!」という目的意識から、組み立てたときに向かい合う目の数の和が7になるような目の配置を考える。また、おもしろいさいころを工夫して作る活動をする。		・さいころを切り開いた形と、それを組み立てた形との、面の位置関係を考えている。
1	7 2	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「はこの形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・箱の形の特徴を調べたり、構成したりすることに主体的に取り組もうとしている。						

15 1000より大きい数

2月上旬～中旬（7時間）
p.73～82

◆単元の目標と評価規準

○4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方を理解し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考える力、及び百を単位としてみて、何百の加法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数を表すことに進んで関わり、数のまとまりに着目して数えたり表したりすることのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(オ)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(イ)、内(1)】

- ・4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方、数の大小や順序、及び数の相対的な大きさについて理解するとともに、簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いて表すことができる。また、何百の加法の計算ができる。＜知・技＞
- ・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かしている。また、百を単位としてみて、何百の加法の計算のしかたを考えている。＜思・判・表＞
- ・数を表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
4	7 3 5 7 8	数のあらわし方 (100がいくつ) (一万)	①10000未満の数のよみ方、表し方、4位数の構成と位取りのしくみ(千の位)を理解する。	・「何まいあるかな?」の活動をきっかけに、紙の束を数えることをとおして、100のまとまりから1000のまとまりを作るとよいことに気づく。 ・4位数の十進位取り記数法によるよみ方、表し方を知る。 ・千の位について知る。 ★まとめアニメ「千の位」を使って確認・説明する。	・千の位について知り、4位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	・十進位取り記数法のしくみをもとに、4位数までの数の表し方や比べ方を考えている。
			②空位のある4位数のよみ方、表し方を理解する。	・3025のような、空位のある4位数のよみ方、表し方を知る。	・空位のある4位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	
			③数の相対的な大きさについて理解する。	・100を23個集めた数や、3400は100を何個集めた数かを考える。	・数の相対的な大きさを理解している。	・数の構成や相対的な大きさに着目し、数を多面的に捉えて表している。
			④10000のよみ方、書き方を理解する。	・花を数えることをとおして、1000を10個集めた数を一万といい、10000と書くことや、9999より1大きい数であることを知る。 ★まとめアニメ「一万」を使って確認・説明する。 ・10000までの数を数直線の上に表し、並び方などを調べる。	・一万について知り、10000のよみ方、書き方、及び数直線での10000までの数の位置、順序、系列を理解している。	
1	7 9	何百の計算	⑤百を単位としてみられる数の加法の計算のしかたを理解する。 [◇10③ 1200-500]*	・700+500のような加法の計算のしかたを100をもとにして考える。 ・1200-500のような計算のしかたを100をもとにして考える。	・100をもとにした加法の計算ができる。	・簡単な場合の3位数の加法の計算のしかたを、100をもとにして考えている。
			[つながるミカタプラス]	・「10や100のまとまり」という見方について、数の大きさを表す場合や、計算のしかたを工夫する場合に用いてきたことを振り返るとともに、筆算の中でも用いてきたことに着目し、共通する見方として統合する。		
1	8 0	学んだことをつかおう	⑥数の役割について考え、物事を分類整理した結果を表すのに数を用いる場合があることを理解する。	・「いろいろな数を見つけよう!」という目的意識から、身のまわりの数に着目し、その数の役割について考える。	・日常生活の中で、整数が分類整理に用いられていることを理解している。	
1	8 2 5	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「1000より大きい数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[10000つぶってどれくらい?]	・ごはん10000粒はお茶碗でおよそ3杯分になることを知り、10000の量感をつかむ。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の数の見方や表し方などをもとに、大きな数のしくみについて主体的に考えたり、4位数や10000を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

■ 数のめいろ

2月中旬（1時間）
p.83

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	8 3		①決められた和になる数の選び方を、筋道を立てて考えることができる。	・いくつかの数を選んで、和が決められた数値になるように迷路を進む。		・決められた和になる数の選び方を筋道を立てて考えている。

◎ ふくしゅう④

	頁	学習活動
	8 4	・「長いものの長さ」「九九の表」「はこの形」の復習をする。 ・単元16「図をつかって考えよう」に関わる既習事項を確認する。

16 図をつかって考えよう

2月下旬（5時間）

p.85～91

◆単元の目標と評価規準

○加法と減法との相互関係について理解するとともに、逆思考の問題場面について、図に表したり、図と式を関連づけたりして解決のしかたを考える力を身につける。また、問題場面を図に表すことに進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(2)ア(エ)】

- ・加法と減法との相互関係について理解するとともに、問題場面を図や式に表すことができる。＜知・技＞
- ・逆思考の問題場面について、図に表したり、図と式を関連づけたりして解決のしかたを考えている。＜思・判・表＞
- ・問題場面を図に表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	8 5 5 9 0		①加法と減法の相互関係について理解する。	・「どんなもんだいができるかな？」の活動をきっかけに、おはじきをつかみどしした結果（青15個、赤17個、合計32個）の場面をもとに、問題作りをする。	・加法と減法の相互関係について理解している。	・加法と減法の相互関係について、図をもとに考え、式で表現している。
			②加法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	・12人乗っているバスに何人か乗車したら28人になったときの乗車した人数を求める場面で、テープ図を手がかりに減法の式に表して求めるしかたを考える。（加法逆減法 $a + \square = b$ の場合）	・加法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	
			③減法逆加法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	・チョコレートを10個食べたあとで13個残っているときの初めにあったチョコレートの数を求める場面で、テープ図を手がかりに加法の式に表して求めるしかたを考える。（減法逆加法 $\square - a = b$ の場合）	・減法逆加法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	
			④減法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	・26cmのテープを何cmが使ったら17cm残ったときの使ったテープの長さを求める場面で、テープ図を手がかりに減法の式に表して求めるしかたを考える。（減法逆減法 $a - \square = b$ の場合）	・減法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	
1	9 1	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「図をつかって考えよう」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。						
・図を用いると場面や数量の関係が捉えやすくなるよさに気づき、問題場面を図に表すことに主体的に取り組もうとしている。						

17 1を分けて

2月下旬～3月上旬（6時間）
p.92～99

◆単元の目標と評価規準

○1/2、1/3など簡単な分数について知り、具体物を操作してそれらの大きさを作ることができるとともに、もとの大きさに着目して分数の大きさを捉えたり表現したりする力を身につける。また、分数に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(カ)】

- ・1/2、1/3など簡単な分数について知っている。＜知・技＞
- ・もとの大きさに着目して、分数の大きさを捉えたり表現したりしている。＜思・判・表＞
- ・分数に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。＜態度＞

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	92 93 94 95 96		①1/2の大きさや意味を理解する。	・「半分に分けよう!」の活動をきっかけに、「半分」の意味について話し合ったり、具体的に説明したりする。 ・折り紙を多様な切り方で半分にする活動をとおして、1/2の意味を知る。 ★まとめアニメ「二分の一」を使って確認・説明する。	・具体物を操作することによって1/2の大きさを作り、1/2のよみ方、書き方を理解している。	・具体物のもとの大きさに着目し、操作によって得られる大きさを表す分数の意味や大きさについて考えている。
			②等分の意味や、等分と倍の関係を知り、1/2の大きさについて理解を深める。	・テープの長さを1/2にする活動をとおして、等分の意味や、等分と倍の関係を知る。	・等分の意味や、等分と倍の関係について理解している。	
			③1/4、1/8の大きさや分数の意味を理解する。	・テープを半分に折って、それをさらに半分に折る活動をとおして、1/4の大きさを知る。また、1/8の大きさや分数の意味を知る。 ★まとめアニメ「分数」を使って確認・説明する。	・具体物を操作することによって1/4、1/8の大きさを作り、分数の意味を理解している。	
			④もとの大きさが違うと1/2の大きさも違うことに気づき、分数の意味について理解を深める。	・もとの長さが10cmのテープの1/2の長さや、1/2にした長さが4cmのテープのもとの長さを考え、もとの長さが違うと1/2の長さも違うことを説明する。	・もとの大きさが異なると、その1/2の大きさも異なることを理解している。	
			⑤1/2、1/3、1/4の大きさを作る活動をとおして、乗法、除法についての素地となる見方を養う。	・12個つながったチョコレートを等分すると何人に分けられるかを考え、図と数、言葉で説明する。 ・12個のチョコレートを何等分かすると1人分は何個になるかを考え、図と数、言葉で説明する。		・乗法、除法の素地的な見方として、分離量について1/2、1/3、1/4の大きさを作り、等分と倍の関係を言葉や図、数を用いて表現している。
1	99	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「1を分けて」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・具体物を操作して1/2、1/3などの大きさを作ったり、分数で表したりすることに主体的に取り組もうとしている。						

■ お楽しみ会で算数

3月上旬（1時間）

p.100～101

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	100		①2学年の学習内容を理解し、問題を解くことができる。	・お楽しみ会の場面絵をもとに、2学年で学習した内容についての問題を解決したり、問題を作ったりする。	・日常の場面から算数の問題を見だし、文章題を解いたり問題を作ったりすることができる。	

● 算数をつかって考えよう

3月中旬（1時間）

p.102～103

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	102	(お手つだい)	①知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、筋道を立てて考えたり、数学的に表現したりすることができる。 グラフの○の数の合計に着目することができる。*	・グラフから、お手伝いの回数が多かった日や少なかった日をよみ取る。また、金曜日の回数をよみ取り、その4倍の回数を求める。 ・グラフの○の数の合計を求める場面で、九九が適用できるように分割したり移動したりして、工夫して求めるしかたを考え説明する。		・日常の場面から算数の問題を見だし、グラフや九九などの学習を活用して解決したり、言葉や図、式などを用いて説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

◎ 2年のまとめ

3月中旬（4時間）

p.104～107

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	104		①②③④第2学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、測定、データの活用についての問題に取り組む。	・第2学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・第2学年で学習した基本的な問題について、それらが確実に身につくように取り組もうとしている。